

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.268

2015年9月

天皇皇后両陛下が本学を訪問



## 目次

### ●ニュース

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 天皇皇后両陛下が本学を訪問                       | 3 |
| 名古屋大学オープンキャンパス2015を開催               | 4 |
| 日本建築学会賞（業績）受賞記念行事を開催                | 5 |
| 平成27年度名古屋大学協会総会・講演会を開催              | 6 |
| 大垣共立銀行との連携・協力体制を構築                  | 6 |
| 産業技術総合研究所との技術交流会を開催                 | 7 |
| 名古屋スペーススクール2015を本学で開催               | 7 |
| キャンパスコンサートを開催                       | 8 |
| 第26回日本数学コンクール及び第19回日本ジュニア数学コンクールを開催 | 8 |
| モンゴル教育文化科学省職員等が行政官研修のため来日           | 9 |

### ●知の先端

|                      |    |
|----------------------|----|
| 「ノイズ」と「遅れ」の視点から      | 10 |
| 大平 徹（大学院多元数理科学研究科教授） |    |

### ●知の未来へ

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 新しい電子波を用いた顕微法と先端ナノ材料研究への応用 | 12 |
| 桑原 真人（エコトピア科学研究所准教授）       |    |

### ●学生の元気

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 第64回東海地区国立大学体育大会 一男子3位、女子4位一 | 13 |
|------------------------------|----|

### ●部局ニュース

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| テクノサイエンスセミナー（TSS）及び化学・生物実験講習会を同時開催 | 14 |
| 平成27年度工学部懇話会を開催                    | 14 |
| テクノフロンティアセミナー（TEFS）を開催             | 15 |
| 上海外国語大学との部局間学術交流協定を締結              | 15 |
| 地球水循環研究センター公開講演会を開催                | 16 |
| 「ミクロの探検隊® in メナード美術館」を開催           | 16 |

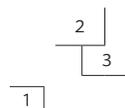
|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| ●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成27年7月16日～8月15日 | 17 |
|---------------------------------|----|

|            |    |
|------------|----|
| ●イベントカレンダー | 20 |
|------------|----|

|               |    |
|---------------|----|
| ●ちょっと名大史      |    |
| 名古屋大学への行幸啓の歴史 | 24 |

# 天皇皇后両陛下が本学を訪問





- 1 一般奉迎の様子
- 2 豊田講堂で両陛下をお出迎える総長（中央）と國枝理事（右）
- 3 ノーベル賞受賞メダルをご覧になる天皇皇后両陛下

天皇皇后両陛下が、7月26日(日)、本学を訪問し、赤崎記念研究館を視察されました。

両陛下の本学への訪問は、国際第四紀学連合第19回大会への出席、トヨタ自動車株式会社元町工場、ノリタケの森の視察とあわせて行われました。

当日は、豊田講堂において、松尾総長、國枝理事が両陛下を出迎えました。はじめに応接室において、大村秀章愛知県知事らが両陛下にあいさつした後、第5会議室において、県勢概要の説明が行われました。次いで、ホワイトエにおいて、総長から本学の概要などについて、本学を紹介するパネルに基づいて説明が行われました。説明の中で総長は、本学の沿革をはじめ、本学が誇る自由闊達な学風が多くの特許受賞者を輩出したことや、国際交流が活発化し留学生数が年々増加していること、本学の最先端の研究施設などについて紹介しました。



続いて、両陛下は赤崎記念研究館に移動され、青色発光ダイオード(LED)に関する展示物を視察されました。同館では、赤崎 勇特別教授、天野 浩工学研究科教授が両陛下を出迎え、赤崎特別教授から青色LEDに関する展示、研究業績などの説明が行われました。赤崎特別教授は、まず両教授のノーベル賞受賞メダルの実物とレプリカ、ディプロマ(賞状)を両陛下にご覧いただきながら、ノーベル賞授賞式に出席した際のエピソードやメダルのデザインなどを説明しました。さらに、青色LEDに関する展示物をご覧

いただきながら、松下電器東京研究所時代の研究成果や青色LED誕生に向けた研究の歴史について、また、名古屋大学時代の研究成果や当時学生だった天野教授らが組み立てた実験装置などについて説明しました。皇后陛下は、メダルのレプリカを手にとられ、両教授を祝福しました。

最後に、両陛下は豊田講堂に移動され、応接室において総長、赤崎特別教授、天野教授と懇談されました。

当日は晴天に恵まれ、職員も一般奉迎に訪れた多数の方々の誘導や案内などを行い、両陛下の訪問を歓迎しました。

# 名古屋大学オープンキャンパス2015を開催



学部紹介の様子

名古屋大学オープンキャンパス2015が、8月7日(金)、10日(月)、11日(火)の3日間にわたり開催されました。これは、高校2年生を中心とした大学進学希望者を対象に、本学の教育・研究における特色の紹介や施設見学等を通じて「名古屋大学で何が学べるか」を紹介し、今後、適切な進路選択をする上での意識を高めてもらうことを目的として、毎年開催しているものです。連日の猛暑の中、多くの高校生が参加しました。

学部企画では、学部長をはじめ、教職員・在学生が一体となり、内容に趣向を凝らした学部説明、模擬講義、施設見学等が行われ、参加者は、教員や在学生と直接懇談して、自分の進路等について詳しく説明を聞き、熱心に質問をしたりメモを取るなど活気にあふれていました。

全体企画では、教職員による「大学紹介」・「名古屋大学の学生支援について」・「名古屋大学の国際化戦略」・「女性研究者から見た名古屋大学」の講演等が行われたほか、生協学生委員による附属図書館・博物館・ケミストリーギャラリー・赤崎記念研究館・2008ノーベル賞展示室等の公開



名大生相談ブースの様子



模擬講義の様子

施設の見学ツアーを実施しました。また「名大生との対話コーナー」では、「各学部の時間割などの展示コーナー」と併せて多くの高校生が相談に訪れました。

学生・若手研究者団体 NUMAP による博物館ガイドツアーも好評でした。

いずれの企画もたいへん多くの参加者が訪れ、活気に満ちあふれていました。

今年度のオープンキャンパス参加者は、3日間を通じて10,634名でした。また、事前申込みができなかった2,327名(保護者等含む)を含め、総勢で12,961名の方ががキャンパスを訪れました。

## オープンキャンパス参加者数

|          |        |         |
|----------|--------|---------|
| 8月7日(金)  | 教育学部   | 624名    |
|          | 経済学部   | 888名    |
|          | 工学部    | 3,415名  |
| 8月10日(月) | 法学部    | 754名    |
|          | 医学部(医) | 643名    |
|          | 農学部    | 771名    |
| 8月11日(火) | 文学部    | 796名    |
|          | 情報文化学部 | 269名    |
|          | 理学部    | 1,526名  |
|          | 医学部(保) | 948名    |
| 合計       |        | 10,634名 |

\*医学部保健学科のオープンキャンパスは大幸キャンパスで実施しています。

## 日本建築学会賞（業績）受賞記念行事を開催



あいさつをする新保技術参事官

2015年日本建築学会賞（業績）受賞記念行事が、8月1日（土）、豊田講堂ホールにおいて開催されました。本行事は、施設・環境計画推進室、工学部施設整備推進室、大学院環境学研究科奥宮研究室及び施設管理部が「名古屋大学キャンパスマネジメントによる創造的再生」により、2015年日本建築学会賞（業績）を受賞したことを記念して執り行われたものです。

この業績は、東山キャンパスの創造的再生に向けた、この10年あまりのキャンパスマネジメントに関わる一連の取り組みを対象としたものです。先人たちが築いたキャンパスの資産を持続的に継承し、現在そして未来にわたり本学の目標を実現するための基盤となるキャンパスを創造的に再生することを目指し、教職員が一体となり、施設の総合的な戦略・企画・計画から実施・運用に至る一貫した流れとして、キャンパスマネジメントの仕組みを構築・実践してきたことが高く評価されました。大学キャンパス全体でのこうした取り組みとして全国初の受賞という快挙となりました。



教員・職員・学生による受賞者等集合写真

受賞記念シンポジウムでは、猛暑の中、企業、大学、自治体等から約450名の参加がありました。松尾総長のあいさつに始まり、新保幸一文部科学省大臣官房文教施設企画部技術参事官よりあいさつが述べられ、第1部では、恒川工学部施設整備推進室室長をはじめ、7名の関係者により受賞業績「名古屋大学キャンパスマネジメントによる創造的再生」について講演が行われ、キャンパスマスタープランやファシリティマネジメント、エネルギーマネジメントなど、本学の先進的な取り組みが披露されました。第2部では、野依記念学術交流館の設計者である飯田善彦飯田善彦建築工房代表、豊田講堂の設計者である福永知義楨総合計画事務所副代表、赤崎記念研究館の設計者である伊藤恭行シーラカンズ・アンド・アソシエイツ代表、上野 武千葉大学教授の4名によるパネルディスカッション「これからの大学キャンパス」が行われ、キャンパスにおけるオープンスペースやマネジメントの意義、役割などについて活発な意見交換が行われ、参加者は熱心に耳を傾けていました。最後に、小松施設管理部長より、まとめのあいさつが述べられシンポジウムは終了しました。

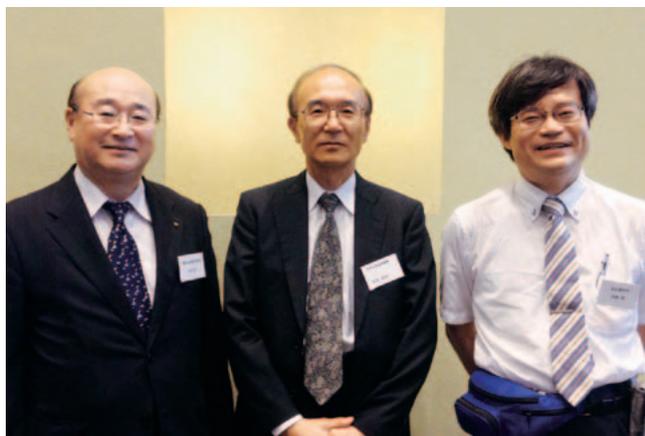
その後、豊田講堂アトリウムにおいて受賞記念パーティが行われました。木村施設整備担当理事のあいさつ、小林英嗣北海道大学名誉教授、柳澤 忠本学名誉教授、中原信生本学名誉教授からの来賓あいさつに続き、谷口 元本学名誉教授の乾杯の発声で幕を開けました。本学にかつて在籍した9名の教職員による懐かしい写真とともに、「名古屋大学キャンパスを語る」と題したリレートークセッションが行われるなど、約250名の参加者により和やかに会が進み、最後に、奥宮施設・環境計画推進室室長より、列席者やこれまでキャンパスの整備や運営に関与いただいた多くの方々に対して、お礼のあいさつが述べられ、盛況の内に閉会しました。

## 平成27年度名古屋大学協力会総会・講演会を開催

平成27年度名古屋大学協力会総会・講演会が、7月18日(土)、ES総合館において開催されました。

総会では、財満副総長の新会長就任及び平成26年度事業報告・決算報告、平成27年度事業計画(案)・予算(案)が承認されました。

講演会では、「産学官連携による青色LEDの研究開発



講演会講師の記念撮影(右から、天野教授、石田上席主任研究員、太田特任顧問)

ーノーベル物理学賞受賞への道のりー」をテーマとしたりレー講演が行われました。1つ目の講演は「学」側の講演として、天野浩工学研究科教授から「名古屋大学における青色LED研究の歴史」について、2つ目の講演は「官」側として、石田秋生科学技術振興機構上席主任調査員から「“青色発光ダイオード”産学連携プロジェクト発足の経緯」について、最後に「産」側から太田光一豊田合成株式会社特任顧問から「豊田合成における青色LED開発の歴史」について、それぞれ貴重な講演が行われました。

また、講演会終了後には、新しい産学官連携研究拠点として今年3月に竣工したナショナルイノベーションコンプレックス(NIC)の見学会が行われました。太幡英亮工学研究科准教授によるNICの設計コンセプト等の説明の後、センター・オブ・イノベーション(COI)プログラム及び学術研究・産学官連携推進本部関連のポスター展示と施設公開が行われました。

ノーベル物理学賞受賞と産学官連携という時宜を得たテーマの関心の高さから、参加者は148名と盛況でした。

## 大垣共立銀行との連携・協力体制を構築

「OKBアジアの架け橋」寄附贈呈記念式典及び名古屋大学・大垣共立銀行連携協定調印式典が、7月22日(水)、本部1号館第2会議室において挙行されました。

「OKBアジアの架け橋」(正式名称:OKB NEXT ASIAN LEADERS SUPPORT FUND)は、大垣共立銀行(OKB)が、本学が昨年度より開始した博士課程教育プログラム「アジ



出席者による記念撮影

ア諸国の国家中枢人材養成プログラム」の趣旨に賛同して設けた支援金で、名古屋大学基金への寄附を通じて、本プログラムの学生が短期スクーリングで日本に滞在する際の支援に充てられます。式典では、木村理事より支援金創設への謝意と、OKBからの期待に沿えるよう大学としてしっかり取り組んでいく決意が、白井猛OKB代表取締役専務からは、今後のアジア展開において協力してお互いを高めていきたいとの期待が述べられました。

引き続き調印が行われた、OKBとの本プログラムに関する連携・協力推進に関する協定書には、OKBが継続的に本プログラムを支援すること、国際展開における情報交換や相互交流などにより更なる連携を推進することが謳われており、市橋理事からは、アジアサテライトキャンパス学院が取り組む本プログラムの意義や、今回の連携協定が国際連携の好事例となることへの期待が述べられました。最後に、愛知県公立大学法人理事長である鮎京正訓参与より、両機関のこれまでの関係の経緯が披露されました。両機関にとって今後の連携・協力への強い期待と意思が改めて確認される、有意義な場となりました。

## 産業技術総合研究所との技術交流会を開催

国立研究開発法人産業技術総合研究所（産総研）との技術交流会が7月28日（火）、ES総合館1階ESホールにおいて開催されました。本交流会は本学と産総研との連携・協力協定に基づく活動の一環として開催されるもので、平成19年に協定が締結されてから今回で通算16回目の開催であり、本学・産総研の関係者64名が参加しました。



会場の様子

開催にあたり、学術研究・産学官連携推進本部長である財満副総長から、平成20年度から平成26年度まで実施していた「FS調査共同研究」をさらに発展させ、「名大-産総研アライアンス事業」として、材料分野以外にも技術分野を拡張して共同研究を募集した旨の紹介がありました。続いて、書面審査を通過した14件（26件の提案）について、各提案テーマ10分間という短い時間の中、本学と産総研の研究者がペアを組んで共同提案を発表し、審査委員等からの質疑応答による有意義な意見交換が行われました。最後に、立石 裕産総研中部センター所長の閉会あいさつがあり、盛況の内に閉会しました。

技術交流会後に開催された審査委員会の結果、10件の採択が決定され、「名大-産総研アライアンス事業」の共同研究を実施することになりました。また、懇親会では、小橋 眞工学研究科教授による乾杯の発声後、技術交流会だけでは時間が足りなかった参加者の間で活発な意見交換が行われました。本学と産総研の得意分野の技術・研究を互いに補完しあいながら、両機関間の共同研究等における連携強化及び人的交流の活発化が期待される技術交流会となりました。

## 名古屋スペーススクール2015を本学で開催

本学と宇宙航空研究開発機構（JAXA）との連携協力協定に基づき「名古屋スペーススクール2015」が、7月28日（火）から31日（金）までの4日間開催されました。これは宇宙や地球環境に対する子どもたちの意識を高め、より良い未来を築いていく人材の育成を目的として行われ、全国から募集した24名の中・高校生が参加しました。参加者は本



モデルロケット打ち上げの様子

学のほか、名古屋市科学館、三菱重工業株式会社、JAXA名古屋空港飛行研究拠点のロケット、宇宙機及び航空機の研究開発現場の見学、モデルロケットの製作、発射実験などを行い、最前線の航空宇宙開発現場を体験しました。

29日（水）の午後からは本学において見学、体験が行われました。大学院工学研究科航空宇宙工学専攻の研究室見学では航空機、宇宙機の風洞実験装置や熱制御、大気圏突入時の宇宙機を守る研究について主に大学院生から紹介があり、参加者たちは熱心に聴き入っていました。また夕方からは、豊田講堂前広場でモデルロケットの打上げを行いました。参加者たちが各自作成したロケットには割れないよう工夫した卵が載せてあり、卵が割れずに着地できるかを競い、ロケットの行方や卵の状態を見て一喜一憂していました。

最終日には報告会があり、体験で学んだことや、スペーススクールの感想を発表しました。本イベントを通し、本学を含め、様々な場所で宇宙に関わる研究開発が行われていることを肌身で感じ、参加者にとって連携の大切さと将来への展望をもつ良い機会になりました。

## キャンパスコンサートを開催

キャンパスコンサートが、7月29日(水)、豊田講堂ホールにおいて、愛知県立芸術大学との共催により開催されました。このコンサートは、平成25年に本学卒業生の寄付により、豊田講堂にグランドピアノが設置されたことに伴い、年2回、愛知県立芸術大学学生の出演により開催されているものです。



演奏の様子

今回は、愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程2年の原田実和子さん(ピアノ)、安田文野さん(ピアノ)、田浦彩夏さん(ソプラノ)、同大学音楽学部器楽専攻管打楽器コース卒業生の石川貴憲さん(サクソフォン)の4名が、曲の紹介を挟みながら、全10曲を披露しました。サクソフォンとピアノによるブートリー「ディヴェルティメント」、ソプラノとピアノによるオペレッタ「The new moon」、「One Kiss」、ピアノの連弾によるガーシュウィン「ラブソディー・イン・ブルー」など、個性豊かな曲目が演奏されました。

会場には、本学学生や教職員のほか、近隣の小中学生や地域住民の方も訪れ、約350名が夏の夜のコンサートを楽しみました。参加者からは、「生演奏を間近で聴けてよかった」、「また参加したい」等の声が多数寄せられました。

次回開催は、12月2日(水)、17時30分を予定しています。どなたでもご参加いただけますので、ぜひお越しください。

## 第26回日本数学コンクール及び第19回日本ジュニア数学コンクールを開催

第26回日本数学コンクール及び第19回日本ジュニア数学コンクールが、8月9日(日)、本学をはじめ、大阪、三重、和歌山、福井の5会場において開催されました。

日本数学コンクールは高校生を対象に、日本ジュニア数学コンクールは小学生から中学生を対象に、科学と技術の基盤を担う夢とロマンを秘めた若者の才能を発掘し、育成



団体戦の様子

していくことを目的に開催されています。

また今年度からは、近年求められている、協力して解を導き出せる人材の発掘・育成を目的として団体戦を同時開催しました。

今年度は両コンクールの共通問題として「段取り上手」、「二進数のような十進数」、「お菓子の交換」、「ジャングルジムの最長経路問題」、「イヤホンの絡まり」の5題が出題され、小・中・高校生337名が、楽しみながら難しい数学の問題に取り組みました。

なお、問題はweb上に掲載されます。(http://www.aip.nagoya-u.ac.jp/public/math-con/)

審査員により論理性や着眼点などが審査され、11月3日(火・祝)に表彰式が行われる予定です。

## モンゴル教育文化科学省職員等が行政官研修のため来日

本学を受入機関として、文部科学省「新世紀国際教育交流プロジェクト・行政官等受入事業」により、7月29日(水)から8月5日(水)の8日間、バープガイ・ナサンバヤル モンゴル教育文化科学省戦略政策予算局長をはじめ、レグスレン・パトエルデネ モンゴル国立大学長、バートル・オチルバト モンゴル科学技術大学長など8名の教育関係



本学訪問時の記念撮影

者を招へいしました。

一行は、山脇良雄文部科学省国際統括官、安西祐一郎日本学術振興会理事長、小畑秀文国立高等専門学校機構理事長等を表敬訪問した後、新潟県長岡市に移動して長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校を訪問し、日本における高等教育の現状、高等専門学校制度について説明を受け、両国における現状と課題について意見交換を行いました。

国立高等専門学校機構では、テレビ会議を使って各高専との意見交換も行いました。モンゴルでは、実践的技術者を育成する日本式高等専門学校の導入に力を入れており、現在、3校の高等専門学校が開校されています。また、これら高専を支援するため、モンゴル教育文化科学省との間で覚書も締結しています。

その後、本学において、ノーベル賞展示や減災館等の施設見学をはじめ、大学院法学研究科、大学院教育発達科学研究科、大学院医学系研究科、大学院環境学研究科などモンゴルで展開している本学の教育・研究について説明を受け、関係者との意見交換を行いました。今回の招へいにより、日本とモンゴル、本学とモンゴル教育文化科学省や各協定校との学术交流のさらなる発展が期待されます。

# 「ノイズ」と「遅れ」の視点から

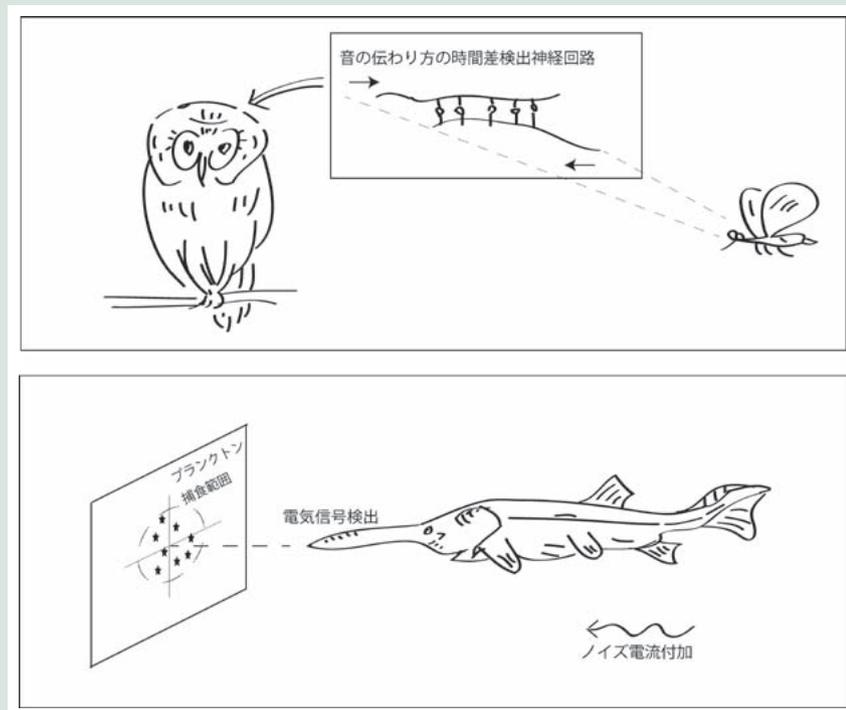
大平 徹 大学院多元数理科学研究科教授

「ノイズ」とか「遅れ」という単語から、好印象を感じられる方はあまり多くはないでしょう。道路工事や携帯電話のノイズや、列車や業務プロジェクトの遅れなど確かに聞こえがよくはありません。そして、実際これらの要素は障害と考えられているため、うまく除去する、もしくはそれらに伴う悪影響が起きないように工夫・対処するのが、情報処理、制御、電気回路などの現場や研究における常道です。

よく「何を研究されていますか」と聞かれて「ノ

イズと遅れの研究です」とおずおずと答えると、やはり「？」という印象を持たれるようです。さらに、「これらの有効活用を数理的に研究しています」と申し上げても困惑は深まるばかりです。具体的な数式や対象を研究テーマとしていないで、「概念」を研究していて、しかも通常とは逆のアプローチなので、これは仕方ありません。

「しかし、有効活用とはいっても」と言う方に、端的なイメージを持っていただく例として、カラオケや風呂場などでの歌声に対するエコー効果を



「遅れ」を活用する神経回路によるふくろうの音源定位（上）  
適度な「ノイズ」付加によるヘラチョウザメの捕食範囲の広がり（下）

挙げることができます。自身の出した声が、ほんの少し遅れて、反射して聞こえることで音に厚みがでて、歌がうまくなったかのように良い気分させてくれます。サッカーやバスケットボールの技術として意図的に動作に遅れをいれるフェイントなども効果的です。また、ある種のフクロウがどの方向から音が聞こえてくるかを知覚する音源定位においても、遅れは活用されています。左右の耳にきた音からの信号について、神経回路がその到達時間の差を活用して音源の位置を決められるように組まれているのです。

ノイズについても、やや意外に思われるかとも思いますが、有効活用の研究があります。この方向では、適度な量のノイズの存在が逆に微弱信号の検知・処理能力を高める可能性が「確率共鳴」というテーマのもとで研究されています。具体例としては、米国のミシシッピ川に生息するヘラチョウザメの飼育水槽の中に適度なノイズ電流を流すことが、そのプランクトンの捕食能力を高めるという研究がミズーリ大学で行われました。これは、ノイズ電流によって、ヘラチョウザメの感覚器の検知閾値レベルに、プランクトンの出す微弱な電気信号が「炙りだされて」感知されるようになったことに拠る効果と考えられています。大きすぎるノイズでは逆に捕食能力が下がるので、ちょうどラジオのチューニングをするように、うまく適度なレベルのノイズを加えてやり、「共鳴」させることが肝要です。

一方では、やはり、ノイズと遅れの要素は単純な動きしかしないようなシステムにおいても、いくつ複雑な挙動をもたらします。特に、二つの要素を共に含む場合については、その性質を明らかにすることは数理科学的に未開拓な部分の多い



反対の手でペットボトルを振りながら棒をバランス

課題となっています。私の研究の一つの側面は、このノイズと遅れを含むシステムの数理研究となっています。特に「遅れランダム・ウォーク」や「遅れ確率共鳴」の概念や数理モデルを提案して研究を進めています。

また、具体的な現象で、これらの要素の存在が示す興味深いシステムの探求も行っています。一例として、椅子に座って長さ60cmほどの棒を指先でバランスをとって倒立させるという制御があります。この時、反対の手で物を持って振ってもらうと制御しやすくなる場合があることを、遅れ確率共鳴からの類推で「発見」しました(写真)。単純ですが、人間の反応の遅れや、さまざまなノイズや揺らぎが複合された現象となっています。委細は近刊の拙著「ゆらぎと遅れの数理：不確かさの数理学」(新潮選書、2015年5月)に述べましたが、読者の皆様もどうぞ試されてください。

名古屋大学大学院多元数理科学研究科教授。1982年筑波大学附属高等学校から、グー基金奨学生として米国ハミルトン・カレッジに入学し、86年卒業。英国ケンブリッジ大学クライスツ・カレッジを経て93年に米国シカゴ大学大学院物理学専攻博士課程修了(Ph. D)。民間企業を経て、2012年4月より現職。専門は「ゆらぎ」や「遅れ」を含むシステムの数理だが、研究対象の題材は物理、生物・生体、社会・経済など幅広く取り上げている。趣味はギター演奏とサッカー。

おおひら とおる



エコトピア科学研究所准教授  
 榎原 真人

# 新しい電子波を用いた顕微鏡と先端ナノ材料研究への応用

電子顕微鏡はナノメートルの空間情報を得る強力なツールです。特に透過電子顕微鏡では、その高い空間分解能により原子位置を反映した像を得ることができ、ウィルスの発見、カーボンナノチューブなどのナノ構造炭素材料の発見、Aharonov・Bohm 効果の証明やナノメートルオーダーの局所構造解析などに大きな役割を果たしてきました。また元素位置や欠陥、界面構造や結合状態などの種々の微細構造の解明にも貢献をしてきています。これは電子波面を高精度に制御した電子線を用いることで実現されており、実空間・逆空間情報、エネルギー空間情報、そして位相空間の情報を得ることを可能としています。

当研究室では、この透過電子顕微鏡に超高速時間情報とスピン情報を抽出する機能を加えた新しい電子顕微鏡の開発に世界で初めて成功しました。これは、スピンと時間を制御した電子線を透過電子顕微鏡で利用することにより実現しています。電子線のスピン偏極度は92%、パルス幅は数ピコ秒であり、半導体光陰極を用いた透過電子

顕微鏡で初めてサブピコ秒時間分解測定が可能となっています。これによって局所状態を時間軸で捉えることができ、静的性質のみならず動的性質を明らかにすることで、過渡現象の解明やエネルギー緩和過程の同定が可能となります。一方、輝度についても $3.1 \times 10^8 \text{ A/cm}^2 \cdot \text{sr} @ 200 \text{ keV}$ と高い値であることを実証し、スピン偏極電子線による干渉実験の実現や、電子線波束が $4 \times 10^{-6}$ と高い縮退度を有していることを明らかにしました。これらの成果は、スピノール場の位相情報やそのフェルミ統計を考慮した電子顕微鏡法の可能性を示唆しており、量子干渉測定についての重要な結果を含んでいます。今後の展開として、この時間分解スピン位相情報の抽出という他に類を見ない独創的な分析手法をさらに開拓することにより、スピン物性の時間分解解析、光エネルギー変換材料の高効率化、ナノ構造を起源とする触媒材料のメカニズムの解明と次世代触媒材料への指針を示すなど、機能性ナノ材料研究への応用を目指しています。

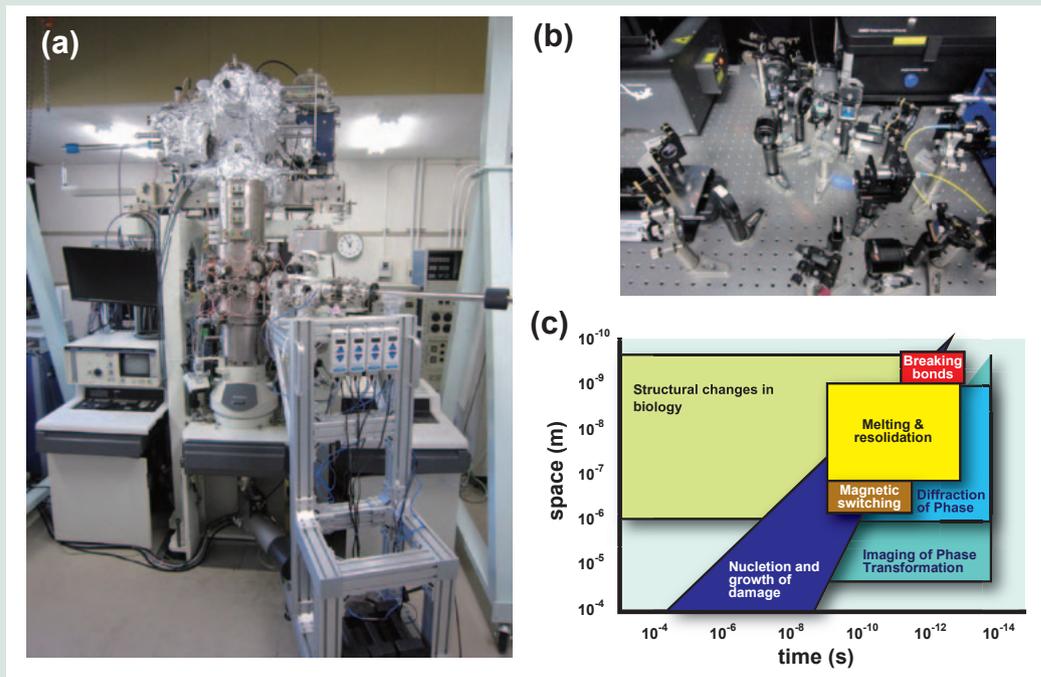


図1 (a) 半導体光陰極型電子源を搭載した透過電子顕微鏡の写真。スピン偏極パルス電子線を応用した新しい電子顕微鏡です。  
 (b) 電子源駆動や試料励起に用いる超短パルスレーザー光学系。これにより電子線のスピンやパルスを自在に制御することが可能となっています。  
 (c) 様々な物性観察に必要とされる時間スケールと微細構造サイズを示したグラフ。縦軸に空間分解能、横軸に時間分解能を示しています。

# 第64回東海地区国立大学体育大会

## —男子3位、女子4位—

第64回東海地区国立大学体育大会（東国体）が、5月から7月の土・日曜日に開催されました。

今年度は名古屋工業大学が幹事大学となり、男子20種目、女子16種目を東海地区8国立大学が分担して競技を運営し実施しました。

出場した選手達は、東海地区の国立大学ナンバーワンの座をかけて全力でプレーし、梅雨空を吹き飛ばす

ような熱戦が繰り広げられました。

大会は7月12日をもって全競技を終え、男子は愛知教育大学、女子は岐阜大学が優勝、本学は昨年度と同じ男子3位、女子4位という結果に終わりました。

近年では、男子は平成24年度に、女子は平成22年度に優勝しており、来年度に向けて選手の一層の精進と活躍が期待されます。

### 第64回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

#### ■男子

| 競技種目       | 名古屋大 |      | 名工大 |      | 豊技大 |      | 静岡大 |      | 浜医大 |      | 愛教大 |       | 三重大 |      | 岐阜大 |      | 備考                     |
|------------|------|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|-------|-----|------|-----|------|------------------------|
|            | 順位   | 得点   | 順位  | 得点   | 順位  | 得点   | 順位  | 得点   | 順位  | 得点   | 順位  | 得点    | 順位  | 得点   | 順位  | 得点   |                        |
| 1 陸上競技     | 3    | 6.0  | 6   | 3.0  | 8   | 1.0  | 4   | 5.0  | 7   | 2.0  | 1   | 10.0  | 2   | 8.0  | 5   | 4.0  |                        |
| 2 水泳       | 1    | 10.0 | 6   | 3.0  | 8   | 1.0  | 4   | 5.0  | 7   | 2.0  | 5   | 4.0   | 3   | 6.0  | 2   | 8.0  |                        |
| 3 硬式野球     |      |      |     |      |     |      |     |      |     |      |     |       |     |      |     |      | 1日目オープン競技、<br>2日目雨天中止  |
| 4 準硬式野球    | 5    | 2.5  | 5   | 2.5  | 3   | 5.5  | 5   | 2.5  | 2   | 8.0  | 1   | 10.0  | 3   | 5.5  | 5   | 2.5  | 3位、4位区別なし、<br>5位以下順位なし |
| 5 硬式テニス    |      |      | 2   | 6.0  | 4   | 4.0  | 1   | 8.0  | 7   | 1.0  | 5   | 3.0   | 3   | 5.0  | 6   | 2.0  |                        |
| 6 ソフトテニス   | 7    | 2.0  | 5   | 4.0  | 6   | 3.0  | 4   | 5.0  | 8   | 1.0  | 1   | 10.0  | 3   | 6.0  | 2   | 8.0  |                        |
| 7 バスケットボール | —    | 0.0  | 1   | 8.0  | 4   | 4.0  | 6   | 2.0  |     |      | 5   | 3.0   | 3   | 5.0  | 2   | 6.0  | 名大不参加（委員会後）            |
| 8 バレーボール   | 4    | 4.0  | 6   | 2.0  | 7   | 1.0  | 3   | 5.0  |     |      | 1   | 8.0   | 5   | 3.0  | 2   | 6.0  |                        |
| 9 卓球       | 3    | 5.0  | 6   | 2.0  | —   | 0.0  | 5   | 3.0  |     |      | 4   | 4.0   | 1   | 8.0  | 2   | 6.0  | 豊技大不参加（委員会後）           |
| 10 バドミントン  | 7    | 2.0  | 6   | 3.0  | 4   | 5.0  | 1   | 10.0 | 8   | 1.0  | 2   | 8.0   | 5   | 4.0  | 3   | 6.0  |                        |
| 11 サッカー    | 1    | 10.0 | 6   | 3.0  | 7   | 2.0  | 5   | 4.0  | 2   | 8.0  | 3   | 6.0   | 4   | 5.0  | —   | 0.0  | 岐阜大不参加（委員会後）           |
| 12 ハンドボール  | 3    | 4.0  | 4   | 3.0  |     |      | 5   | 2.0  |     |      | 2   | 5.0   | 6   | 1.0  | 1   | 6.0  |                        |
| 13 柔道      | 2    | 6.0  | —   | 0.0  | 5   | 3.0  | 3   | 5.0  |     |      | 4   | 4.0   | —   | 0.0  | 1   | 8.0  | 名工大、三重大不参加<br>（委員会後）   |
| 14 剣道      | 3    | 6.0  | 6   | 3.0  | 8   | 1.0  | 4   | 5.0  | 5   | 4.0  | 2   | 8.0   | 7   | 2.0  | 1   | 10.0 |                        |
| 15 空手道     | 1    | 10.0 | —   | 0.0  | —   | 0.0  | 2   | 8.0  | 6   | 3.0  | 3   | 6.0   | 4   | 5.0  | 5   | 4.0  | 名工大、豊技大不参加<br>（委員会後）   |
| 16 弓道      | 1    | 8.0  | 5   | 3.0  | 7   | 1.0  | 2   | 6.0  | 3   | 5.0  |     |       | 6   | 2.0  | 4   | 4.0  |                        |
| 17 体操      | 2    | 5.0  | 5   | 2.0  |     |      | 3   | 4.0  |     |      | 4   | 3.0   | —   | 0.0  | 1   | 6.0  | 三重大不参加（委員会後）           |
| 18 馬術      | 4    | 2.0  | 3   | 4.0  |     |      | 4   | 2.0  |     |      | 2   | 5.0   | 1   | 6.0  | 4   | 2.0  | 4位以下順位なし               |
| 19 アーチェリー  | 1    | 5.0  |     |      |     |      | 4   | 2.0  |     |      | 2   | 4.0   | 3   | 3.0  | 5   | 1.0  |                        |
| 20 少林寺拳法   |      |      |     |      |     |      | 1   | 4.0  |     |      | 4   | 1.0   | 2   | 3.0  | 3   | 2.0  |                        |
| 合計得点       |      | 87.5 |     | 51.5 |     | 31.5 |     | 87.5 |     | 35.0 |     | 102.0 |     | 77.5 |     | 91.5 |                        |
| 男子順位       |      | 3    |     | 6    |     | 8    |     | 3    |     | 7    |     | 1     |     | 5    |     | 2    |                        |

#### ■女子

| 競技種目       | 名古屋大 |      | 名工大 |      | 豊技大 |     | 静岡大 |      | 浜医大 |      | 愛教大 |      | 三重大 |      | 岐阜大 |      | 備考                   |
|------------|------|------|-----|------|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|----------------------|
|            | 順位   | 得点   | 順位  | 得点   | 順位  | 得点  | 順位  | 得点   | 順位  | 得点   | 順位  | 得点   | 順位  | 得点   | 順位  | 得点   |                      |
| 1 陸上競技     | 3    | 5.0  | —   | 0.0  |     |     | 2   | 6.0  | 6   | 2.0  | 1   | 8.0  | 4   | 4.0  | 5   | 3.0  | 名工大不参加（委員会後）         |
| 2 水泳       | 3    | 5.0  | 7   | 1.0  |     |     | 4   | 4.0  | 5   | 3.0  | 1   | 8.0  | 6   | 2.0  | 2   | 6.0  |                      |
| 5 硬式テニス    |      |      |     |      |     |     | 1   | 5.0  | 3   | 3.0  | 2   | 4.0  | 4   | 2.0  | 5   | 1.0  |                      |
| 6 ソフトテニス   | 1    | 8.0  | 4   | 4.0  |     |     | 2   | 6.0  | 7   | 1.0  | 6   | 2.0  | 3   | 5.0  | 5   | 3.0  |                      |
| 7 バスケットボール | —    | 0.0  |     |      |     |     | 1   | 5.0  |     |      | 2   | 4.0  | 4   | 2.0  | 3   | 3.0  | 名大不参加（委員会後）          |
| 8 バレーボール   | 4    | 2.0  | 5   | 1.0  |     |     |     |      |     |      | 1   | 5.0  | 3   | 3.0  | 2   | 4.0  |                      |
| 9 卓球       | 2    | 5.0  | 6   | 1.0  |     |     | 3   | 4.0  |     |      | 4   | 3.0  | 5   | 2.0  | 1   | 6.0  |                      |
| 10 バドミントン  | 6    | 2.0  | 5   | 3.0  |     |     | 4   | 4.0  | 7   | 1.0  | 3   | 5.0  | 1   | 8.0  | 2   | 6.0  |                      |
| 12 ハンドボール  |      |      |     |      |     |     |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      | オープン競技               |
| 13 柔道      | 1    | 5.0  |     |      | —   | 0.0 | 2   | 4.0  |     |      | —   | 0.0  |     |      | 3   | 3.0  | 豊技大、愛教大不参加<br>（委員会後） |
| 14 剣道      | 3    | 5.0  | —   | 0.0  |     |     | 4   | 4.0  | 5   | 3.0  | 6   | 2.0  | 2   | 6.0  | 1   | 8.0  | 名工大不参加（委員会後）         |
| 15 空手道     | 5    | 2.0  |     |      |     |     | 4   | 3.0  | 1   | 6.0  | 6   | 1.0  | 2   | 5.0  | 3   | 4.0  |                      |
| 16 弓道      | 4    | 4.0  | 5   | 3.0  | 7   | 1.0 | 6   | 2.0  | 2   | 6.0  |     |      | 3   | 5.0  | 1   | 8.0  |                      |
| 17 体操      | —    | 0.0  |     |      |     |     | 3   | 2.0  |     |      | 2   | 3.0  |     |      | 1   | 4.0  | 名大不参加（委員会後）          |
| 19 アーチェリー  | 4    | 1.0  |     |      |     |     | 3   | 2.0  |     |      | 1   | 4.0  |     |      | 2   | 3.0  |                      |
| 20 少林寺拳法   |      |      |     |      |     |     |     |      |     |      |     |      |     |      |     |      | オープン競技、<br>団体戦成立せず   |
| 合計得点       |      | 44.0 |     | 13.0 |     | 1.0 |     | 51.0 |     | 25.0 |     | 49.0 |     | 44.0 |     | 62.0 |                      |
| 女子順位       |      | 4    |     | 7    |     | 8   |     | 2    |     | 6    |     | 3    |     | 4    |     | 1    |                      |



馬術



バドミントン



硬式野球

## テクノサイエンスセミナー (TSS) 及び化学・生物実験講習会を同時開催

### ●工学部

工学部は、8月6日(木)、同学部化学・生物工学科の各実験室において、テクノサイエンスセミナー及び化学・生物実験講習会を同時開催し、「夢を拓く化学・生物工学」をスローガンに掲げた実験体験講習を実施しました。

この企画は、高校生を対象に、応用化学、分子化学工学及び生物機能工学の研究・学問の最先端に触れ、体験実験



お茶からカフェインを抽出する様子

を通じて教員や大学院生と直接交流する中で、大学で化学を学ぶことの面白さを体感してもらうことを目的として、毎年この時期に実施されています。今年は東海地域の29校から、115名の高校生が参加し、過去最大規模の講習会となりました。

参加者は「カフェインの抽出～眠気覚ましに一番～」、「超音波を使って化学反応を起こそう」、「磁石に反応する流体を作製しよう」など化学や生物に関連した16の実験課題の中から各自が選んだテーマについて、午前、午後に1テーマずつ2つの実験に取り組みました。参加者は普段は立ち入ることのない大学の研究室で、教員や大学院生のアドバイスを受けながらマイクロピペットや反応装置などを使った実験を体験することで大きな刺激を受け、大学で学ぶ化学・生物工学分野への興味を深めていました。

## 平成27年度工学部懇話会を開催

### ●工学部

工学部は、8月7日(金)、ES総合館3階大会議室において、平成27年度工学部懇話会を開催しました。同懇話会は、高等学校の進路指導担当教諭を対象に、本学の工学部を知ってもらい、その教育・研究を評価してもらうことを目的に、平成8年度から毎年開催しているもので、昨年度に引き続き、オープンキャンパスと同日に開催しました。



少人数グループによる意見交換の様子

今回は「高校・大学共同討論－社会を突き動かす人材の育成－」をテーマに、近隣6県の33の高等学校から38名の教諭が参加しました。

司会による開催趣旨説明に続き、新美工学部長からあいさつと工学部の概要説明が行われました。その後、工学部の各学科長から各学科の教育・研究内容について説明があり、講演の最後に大学院工学研究科博士課程後期課程2年の三浦 峻さんから学生生活に関する講演が行われました。

懇話会の後半にはまず、高校教諭の方々から事前に寄せられた教育内容、入試、就職状況等に関する質疑に対し、工学部教員からの回答が行われました。続いて、平成25年度から実施している、ワールドカフェ方式の少人数グループによる意見交換が行われ、細かいところまで気軽に、また忌憚のない話をするのができたこと好評でした。

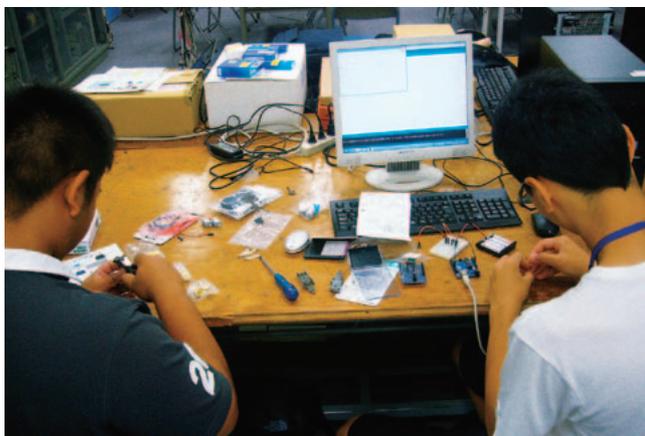
その後、13の班に分かれて各研究室見学を行い、工学部教員や大学院生から、現在進めている研究内容が紹介されました。大学院生との対話を通じて、学生が成長する様子に直に接してもらうことにより、工学部における教育・研究活動の魅力を高校教諭の方々に伝えるよい機会となりました。

## テクノフロンティアセミナー（TEFS）を開催

●工学部

工学部は、8月12日(水)、同学部電気電子・情報工学科の各学生実験室等において、テクノフロンティアセミナー(TEFS)「触れてみよう、電子の情報の最先端に」を開催しました。

このセミナーは、電気電子・情報分野の最先端の研究を直接体験して工学の面白さを理解してもらうことにより、



実験に取り組む参加高校生

近年の若年層の理工系離れを少しでも解消することを目的に、公益財団法人KDDI財団の援助のもと、教員の有志によって、平成7年度から毎年この時期に高校生を対象に実施されています。

今年は東海地方を中心とした高等学校から32名の参加があり、参加者は「太陽電池を作る」、「3Dプリンタで画像を立体化」など、6つの実験課題の中から各自が選んだテーマについて、試行錯誤を繰り返しながら熱心に製作・実験に取り組みました。

参加者は教員や大学院生との交流や大学施設の利用を通じ、大学生活を実感する充実した一日を過ごせたようでした。このセミナーを通じて、参加者が電気電子・情報分野に、より興味をもってもらえることが期待されます。

## 上海外国語大学との部局間学術交流協定を締結

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科は、7月16日(木)、上海外国語大学の日本文化経済学院及び国際文化交流学院との部局間学術交流協定を締結しました。

今年3月、日本文化経済学院の許慈恵院長から福田同研究科長に、学術交流と大学院生の単位互換を前提とする交換留学を目的とした交流協定の申し入れがあり、これまで

の交流と信頼関係に基づき、協定の締結に至りました。

日本語文化経済学院は、日本語教育・日本関係研究において、中国でもトップレベルの水準を有しています。同研究科日本語文化専攻もまた、1988年に設立(当時は文学研究科所属)されて以来、国内外で有数の日本語教育研究機関としてこの研究分野をリードしていることから、これまで互いに、国際フォーラムや研究会、講演会など多様な交流実績を積んできました。

また、国際文化交流学院は、4,200名を超える留学生を擁し、留学生の管理、留学生に対する中国語教育及び中国語の研究を行っています。修士課程も設置され、「言語学及び応用言語学」、「中国語国際教育」、「中国近現代文学」と「中国語言語・文字学」の4つの専門課程で研究が盛んに行われています。

本協定の締結により、本学と上海外国語大学との活発な教育・研究の交流促進だけでなく、本学の国際化への貢献にもつながることが期待されます。



記念撮影(左から張院長、福田研究科長、許院長)

## 地球水循環研究センター公開講演会を開催

●地球水循環研究センター

地球水循環研究センターは、7月18日(土)、シンポジオンホールにおいて、公開講演会「ふたたび雲をつかむ話」を開催しました。同センターは、10年前にも「雲をつかむ」というタイトルの公開講演会を開催し、当時の研究で雲の理解がどこまで進んでいるのかについての話題提供を行いました。その後の10年間で、新しい測器を搭載した人工衛



講演会場の様子

星による観測結果の配信や、計算機能力の著しい進歩により、私たちの雲に対する理解は大きく進みました。今回の講演会では、この10年間の雲に関する研究成果について、その最前線で研究に取り組んできた新進気鋭の研究者である荒木健太郎気象研究所研究官、鈴木健太郎東京大学大気海洋研究所准教授、佐藤陽祐理化学研究所基礎科学特別研究員、杉山耕一朗宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所研究員の4名より提供がありました。雲を粒として捉える場合と雲を塊として捉える場合の課題、地球温暖化問題における影響、計算機の中で雲を作る方法や太陽系の惑星で観測された地球上とは異なる性質の雲についての講演がありました。

当日は暑い中、136名という多くの方の来場があり、各講演において、活発かつ興味深い質疑が行われました。今回で、地球水循環研究センターとしては最後の公開講演会となります。10月1日からは、太陽地球環境研究所及び年代測定総合研究センターとの統合により生まれる宇宙地球環境研究所として、これまでと同様に興味深いテーマの公開講演会の継続を予定しています。

## 「ミクロの探検隊® in メナード美術館」を開催

●博物館

博物館では、8月1日(土)、小牧市のメナード美術館において「ミクロの探検隊® in メナード美術館」を日立ハイテクノロジーズの協力を得て開催しました。同館では、9月5日(土)まで日本を代表する陶芸家である鈴木五郎氏の展示を、メナード美術館とのコラボレーション企画「鈴木五郎 石と陶器の融合アート」として開催しており、今回



観察の様子

は、その関連企画として会場を博物館から美術館へ移しての「出張ミクロの探検隊®」としました。

また、今回、多くの参加者がミクロの世界をより深く楽しむことが出来るように光学顕微鏡だけでなく、走査型電子顕微鏡も博物館からメナード美術館へ移動しました。電子顕微鏡は元来固定して動かせない物ですが、当館に備えてあるTM-1000sは、専用カートに乗せてあり、車イス用のスロープを使ってどこへでも運べるように工夫してあります。

当日は、小学生から中学生までの23名が、植物、昆虫、微化石(放射虫)から好きな材料を選び、自分の手で試料作りから電子顕微鏡観察までを行いました。初めてふれるミクロの世界にどの参加者も驚きと興味で、「すごい、きれい」、「蝶の鱗粉は花びらみたい」、「グミの葉には、花のような毛が生えている」、「昆虫は毛だらけだ」など口々に歓声を上げていました。終了後のアンケートの回答でも「また参加したい」、「科学に興味を持てた」、「とても面白かった」など好評でした。

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年7月16日～8月15日]

| 記事  | 月日                   | 新聞等名               |
|---|----------------------|--------------------|
| 1 学術研究・産学官連携推進本部と OKB 総研が包括連携協定を締結  | 7.16 (木)             | 読売<br>中日 (朝刊)      |
| 2 ソフトウェアがつくる価値①:持続的な製品改善の“カナメ役”利用者視点の価値追求を 森崎修司情報科学研究科准教授   | 7.16 (木)             | 日刊工業               |
| 3 本学は太陽地球環境研究所、地球水循環研究センター、年代測定総合研究センターを統合、10月に「宇宙地球環境研究所」を新設する   | 7.17 (金)             | 日刊工業               |
| 4 NPO 愛知排泄ケア研究会・名古屋大学排泄情報センター市民公開講座開催:20日   | 7.17 (金)             | 毎日 (朝刊)<br>読売      |
| 5 健康教育講座:22日 柴田清住医学系研究科准教授が「子宮体がんの診断から治療まで」をテーマに講演  | 7.17 (金)             | 読売                 |
| 6 第7回セントレア盆踊り開催:19日 本学留学生などが参加  | 7.17 (金)             | 読売                 |
| 7 本学は国連ウィメンが進める「HeForShe」キャンペーンで世界の手本となる大学に日本で唯一選ばれ、本学の学童保育の開設に男女共同参画室の委員として携わった佐々木成江理学研究科准教授は「福利厚生ではなく、研究力強化のための施策」と語る | 7.18 (土)             | 朝日 (朝刊)            |
| 8 「ぎふメディアコスモス」開館記念式典:18日 益川敏英本学特別教授は「自分も本との出会いがなければ、こんな立場にならず、おやじの砂糖屋を継いでいた」と語る   | 7.18 (土)             | 中日 (夕刊)            |
| 9 第21回博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」開催:5月26日～9月26日まで  | 7.18 (土)             | 朝日 (朝刊)            |
| 10 三井生命厚生財団第48回「医学研究助成」:主幹脳動脈狭窄の治療 石井秀樹医学部附属病院講師  | 7.18 (土)             | 毎日 (朝刊)            |
| 11 日本病院会シンポジウム開催:18日 長尾能雅医学部附属病院教授が講演し医療事故の調査について「事実関係をできるだけ正確に把握することで、精度の高い分析ができ、質の高い再発防止策が立てられる」と語る                   | 7.19 (日)             | 中日 (朝刊)            |
| 12 本学はオーストラリア・アデレード大学とジョイント・ディグリー (共同学位) 制度を始めると発表  | 7.20 (月)             | 日刊工業               |
| 13 キラリ研究開発:第172回・分野の壁を越える! トランスフォーマティブ生命分子研究所   | 7.20 (月)             | 日刊工業               |
| 14 「授業研究」海外から視察 久野弘幸教育発達科学研究科准教授が常任理事を務める「世界授業研究会」が主催し福井県内で授業研究研修が行われ、シンガポールの小中学校教員らが高校での授業を参観                          | 7.20 (月)             | 中日 (朝刊)            |
| 15 レーザー:夢への一歩「生きたまま測るのが夢だった」東山哲也トランスフォーマティブ生命分子研究所教授  | 7.21 (火)             | 日刊工業               |
| 16 COP21、11月からパリで 温暖化対策 どうなる国際交渉-ポスト京都議定書めざす 高村ゆかり環境学研究科教授は「日本は確実に排出減らす戦略を」と語る  | 7.21 (火)             | 日経 (朝刊)            |
| 17 キャンパスコンサート開催:29日 豊田講堂で愛知県立芸術大学の院生や卒業生による演奏会が行われる   | 7.21 (火)<br>7.25 (土) | 中日 (朝刊)<br>朝日 (朝刊) |
| 18 加藤愛太郎環境学研究科准教授らのグループは2014年9月に噴火した御嶽山の直前の地震計のデータを分析し発表  | 7.22 (水)             | 朝日 (朝刊)<br>中日 (朝刊) |
| 19 第47回全日本大学駅伝東海地区選考会:5日 4位 名古屋大学   | 7.22 (水)             | 朝日 (朝刊)            |
| 20 天野 浩工学研究科教授が世界を灯す LED と題して岡崎市の図書館交流プラザで講演し「モンゴルの大草原など発電のできない場所でも太陽光パネルと LED があれば夜でも子どもたちが勉強できるようになる」と語る              | 7.23 (木)             | 読売                 |
| 21 ソフトウェアがつくる価値②:なぜ出荷後に価値や品質を高めることができるのか 通信ネット普及・低廉化 森崎修司情報科学研究科准教授   | 7.23 (木)             | 日刊工業               |
| 22 本学など指定された17カ所の拠点病院で診断がつかない病気の子どものゲノムを解析して診断や治療につなげるプロジェクトを始めると日本医療研究開発機構が発表  | 7.23 (木)             | 朝日 (朝刊)            |
| 23 日本機械学会「機械の日・機械週間」記念行事開催:8月7日 福和伸夫減災連携研究センター教授が講演   | 7.23 (木)             | 日刊工業               |
| 24 経済観測:中小企業の再生を 丹羽宇一郎本学名誉博士  | 7.23 (木)             | 毎日 (朝刊)            |
| 25 東海経済シンポジウム開催:11月5日 丹羽宇一郎本学名誉博士が講演  | 7.23 (木)             | 朝日 (朝刊)            |
| 26 地銀 次の一手:法人・個人向け一体に 三重銀行頭取渡辺三憲氏本学卒業生  | 7.23 (木)             | 毎日 (朝刊)            |
| 27 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授らのグループはニワトリが集団内の順番に従って朝鳴いていることを突き止めた   | 7.24 (金)<br>7.31 (金) | 中日 (朝刊)<br>毎日 (夕刊) |
| 28 祖父江 元医学研究科特任教授が浜松医科大学の次期学長選挙の候補者に選出される   | 7.25 (土)             | 中日 (朝刊)            |
| 29 本学と東京大学の研究者らがミュー粒子を使ってピラミッドの内部を解明する計画が解説される  | 7.26 (日)             | 朝日 (朝刊)            |
| 30 天皇、皇后両陛下が赤崎記念研究館を訪れ赤崎 勇本学特別教授と天野 浩工学研究科教授が青色発光ダイオードの研究などについて説明した   | 7.27 (月)             | 中日 (朝刊)<br>他4社     |
| 31 戦後70年 戦争と私 体験話す責任がある 益川敏英本学特別教授  | 7.28 (火)             | 日経 (朝刊)            |
| 32 大学サミット 第1回グローバル人材をどう育てるか? 松尾総長と名城大学学長吉久光一氏の対談  | 7.28 (火)             | 朝日 (朝刊)            |
| 33 浅野伸一さんが74歳で本学にて博士号を取得したことが取り上げられ、指導教員の羽賀祥二文学研究科教授は「若い人から学ぼうとする姿勢が強く、とても実直で精力的な研究者」と語る                                | 7.29 (水)             | 毎日 (夕刊)            |
| 34 ソフトウェアがつくる価値③:モノからの情報の多面的な利用を促す IoT 複数用途でコスト削減 森崎修司情報科学研究科准教授  | 7.30 (木)             | 日刊工業               |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年7月16日～8月15日]

| 記事   | 年月日                  | 新聞等名                     |
|--|----------------------|--------------------------|
| 35 堀場雅夫賞：湯川 博先端ナノバイオデバイス研究センター特任講師   | 7.30 (木)             | 日刊工業                     |
| 36 70年談話「反省踏まえて」丹羽宇一郎本学名誉博士  | 7.30 (木)             | 朝日(朝刊)                   |
| 37 榎 文彦本学名誉博士ら建築家グループは新国立競技場の新たな建設計画に向けた提言を発表  | 7.30 (木)             | 中日(夕刊)<br>毎日(夕刊)         |
| 38 LINKED 19：松尾総長が10年後の2025年の看護師像とそのため教育について語る   | 7.31 (金)             | 中日(朝刊)                   |
| 39 中日健康フェア2015 特別講座「世界に広がる、日本式の内視鏡診断・治療」：後藤秀実医学系研究科教授  | 7.31 (金)             | 中日(朝刊)                   |
| 40 杉山範子環境学研究科特任准教授が日本版「首長誓約」について解説   | 7.31 (金)             | 日刊工業                     |
| 41 中国百科検定開催：9月27日 IB 電子情報館にて試験が行われる  | 7.31 (金)             | 毎日(朝刊)                   |
| 42 戦後70年：『昭和陸軍全史』刊行を終えて 川田 稔本学名誉教授   | 7.31 (金)             | 中日(夕刊)                   |
| 43 第10回創造性の育成塾：7月31日～8月7日 天野 浩工学研究科教授が理科好きの中学2年生に講義を行い「自分なら何ができるか、おもしろいと思えることからチャレンジすれば、いつか自分しかできないことが見つかるはず」と語る | 8. 1 (土)<br>8. 2 (日) | 日経(夕刊)<br>山梨日日<br>毎日(朝刊) |
| 44 浜松市立広沢小学校・蛸塚中学校祝賀同窓会：1日 天野 浩工学研究科教授が「こんなにたくさんの人が集まってくれてうれしい」と語る   | 8. 2 (日)             | 静岡(朝刊)<br>中日(朝刊)         |
| 45 病院の実力：看護外来 本学の実績が取り上げられる  | 8. 2 (日)             | 読売                       |
| 46 キラリ研究開発：第173回・分野の壁を越えた研究で体内時計サイクルを変える分子づくり!? トランスフォーマティブ生命分子研究所   | 8. 3 (月)             | 日刊工業                     |
| 47 備える3.11から 災前の策 第118回想定シリーズ⑩災害時要援護者：窪田由紀教育発達科学研究科教授 各自の避難準備具体的に  | 8. 3 (月)             | 中日(朝刊)                   |
| 48 げんさいカフェ開催：12日 益川敏英本学特別教授が「減災研究者と社会」をテーマに講演  | 8. 4 (火)             | 中日(朝刊)                   |
| 49 美浜町名誉町民 顕彰式：1日 平野元総長、経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生  | 8. 4 (火)             | 中日(朝刊)                   |
| 50 戦後70年：太陽地球環境研究所豊川分室にかつてあった「東洋一の兵器工場」豊川海軍工廠が空爆で壊滅し、2500人を超える遺体が横たわった   | 8. 4 (火)             | 中日(朝刊)                   |
| 51 名古屋大学レクチャー開催：9月6日 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授が講演   | 8. 4 (火)             | 中日(朝刊)                   |
| 52 第7回幸田町プレステージレクチャーズ開催：堀 勝未来社会創造機構教授が「低温プラズマ科学とその応用」と題して講演  | 8. 4 (火)             | 中日(朝刊)                   |
| 53 時のおもりの小選挙区制の大きな弊害「政治家の信念」無くす 池内 了本学名誉教授   | 8. 5 (水)             | 中日(朝刊)                   |
| 54 野外観察園セミナーハウス サテライト展示「ムシの世界—名古屋大学博物館の昆虫標本と切り紙と博物画」開催：7月6日～10月30日   | 8. 5 (水)             | 朝日(夕刊)                   |
| 55 松見 豊太陽地球環境研究所教授らのグループは、小型で精度の高い大気中の微粒子(PM2.5)計測器の開発に成功し、パナソニックが9月に発売する空気清浄機に内蔵されることになった                       | 8. 6 (木)             | 中日(朝刊)<br>朝日(朝刊)         |
| 56 生きものたちの時間 吉村 崇トランスフォーマティブ生命分子研究所教授⑤：厳しいニワトリの縦社会 強さで決まる優先順位  | 8. 6 (木)             | 中日(朝刊)                   |
| 57 中部経済同友会 創立60周年記念行事開催：5日 天野 浩工学研究科教授が講演  | 8. 6 (木)             | 中日(朝刊)<br>他2社            |
| 58 産業技術総合研究所は大学の最先端の研究成果の事業化を後押しするため、本学内に新たな研究拠点を設け、連携を強化する  | 8. 6 (木)             | 日経(朝刊)                   |
| 59 ソフトウェアがつくる価値④：IoTにおけるモノと情報システムの高度な連携 実績から傾向を分析・予測 森崎修司情報科学研究科准教授  | 8. 6 (木)             | 日刊工業                     |
| 60 公益財団法人「中部科学技術センター」学術奨励研究助成：平川晃弘医学部附属病院講師、黒澤昌志エコトピア科学研究科特任講師   | 8. 7 (金)             | 中日(朝刊)                   |
| 61 榎 文彦本学名誉博士らのグループが遠藤利明五輪担当相と意見交換をし、新国立競技場について「五輪後を考えると土地にふさわしい身の丈にあったものが国民に喜ばれる」と語る                            | 8. 7 (金)             | 毎日(朝刊)                   |
| 62 朝日カルチャーセンター名古屋「ダークサイド・オブ・ピラミッド」：河江肖剰さん人類文化遺産テキスト学研究センター研究員  | 8. 7 (金)             | 朝日(夕刊)                   |
| 63 かがくゼミナール「たいばん物語—いのちをつなぐバトン—」開催：30日 鈴木和代本学名誉教授とナーベルプラ座が胎盤の働きを物語風にわかりやすく伝える                                     | 8. 7 (金)             | 朝日(夕刊)                   |
| 64 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授のノーベル物理学賞受賞を機に本学が窒化物の日本最大の研究拠点整備に着手   | 8. 8 (土)             | 中日(朝刊)                   |
| 65 全日本学生フォーミュラ大会開催：9月1日～5日 フォーミュラチーム「FEM」のリーダ西尾俊亮さん工学研究科1年生は「ライバルのレベルも上がっている チーム力で連覇を目指したい」と語る                   | 8. 8 (土)             | 中日(朝刊)                   |
| 66 ドクター井口のほのぼのクリニック：医学部附属病院院長だった時代の話 愛知淑徳大学教授井口昭久本学名誉教授  | 8. 8 (土)             | 毎日(朝刊)                   |

## 本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成27年7月16日～8月15日]

| 記事  | 月日       | 新聞等名    |
|---|----------|---------|
| 67 「リフレッシュ理科教室」開催：8日 赤崎 勇本学特別教授、天野 浩工学研究科教授のノーベル物理学賞受賞にちなみ、発光ダイオードをテーマに身近な道具を使って実験や工作を楽しむ教室が名古屋市科学館で行われた        | 8.10 (月) | 中日 (朝刊) |
| 68 名古屋帝国大学病院に極秘入院した汪兆銘氏の食事の調達などを担った名古屋観光ホテル宴会主任が当時を振り返った手記を書いていたことが分かり、その手記を大学文書資料室で預かっている                      | 8.10 (月) | 読売      |
| 69 新村父子 絆の上申書「広辞苑」の編者、新村 出氏が次男の新村 猛本学元教授が治安維持法違反容疑で逮捕された際に書いたとみられる上申書が見つかった                                     | 8.10 (月) | 中日 (夕刊) |
| 70 @大学：研究成果公開 博物館が人気 第21回博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」開催：5月26日～9月26日   | 8.11 (火) | 毎日 (朝刊) |
| 71 戦後70年 思う③：平和は国民守る生命線 丹羽宇一郎本学名誉博士   | 8.12 (水) | 毎日 (朝刊) |
| 72 ソフトウェアがつくる価値⑤：知らない間の劣化 どう対策？ 依存関係を把握 すぐ修正 森崎修司情報科学研究科准教授   | 8.13 (木) | 日刊工業    |
| 73 みんなの本：書籍「いま、大学で何が起きているのか」日比嘉高文学研究科准教授著   | 8.13 (木) | 中日 (朝刊) |
| 74 鈴木和代本学名誉教授が代表を務め、本学で助産学を学んだ学生が1999年に結成した「ノーベルプラ座」の活動が取り上げられる   | 8.13 (木) | 朝日 (夕刊) |
| 75 神奈川県2015年度「エネルギー関連等ベンチャー事業化促進事業」：細胞ビッグデータ摂動解析サービス (本学と日本バイオデータ)  | 8.14 (金) | 日刊工業    |
| 76 成果の最大化へ 国立研究開発法人トップに聞く⑥：国立がん研究センター理事長堀田知光氏本学卒業生  | 8.14 (金) | 日刊工業    |
| 77 日本の戦後復興、高度成長…そして成熟 際立つ科学技術力 野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林 誠同特別教授、下村 脩同特別教授、赤崎 勇同特別教授、天野 浩工学研究科教授らのノーベル賞受賞者が取り上げられる | 8.15 (土) | 日経 (朝刊) |

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

5月26日(火)～9月26日(土)

場 所：博物館 2階展示室  
時 間：10:00～16:00  
休 館 日：日・月曜日  
入 場 料：無料

第21回博物館特別展「関戸弥太郎と宇宙線望遠鏡」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

6月10日(水)～9月30日(水)

場 所：附属図書館医学部分館  
2階入口ホール  
時 間：9:00～20:00(平日)  
(8/10～9/30は9:00～17:00)、  
13:00～17:00(土曜日)  
休 館 日：日・祝日  
入 場 料：無料

附属図書館医学部分館ミニ展示会

「伝染病と闘ってきた

— 虎列刺 瘧疾 痘瘡 實布埒利亞 黒死病 そして —」

内 容：医学部史料室(附属図書館医学部分館4階)に所蔵する史料の中から、「伝染病予防法」施行前後の人間と伝染病との歴史に関連する古医書、掛図などを展示公開する



[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

7月4日(土)～10月3日(土)、

9月8日(火)～10月24日(土)  
場 所：博物館 2階展示室(7/4～10/3)、  
博物館ホワイエ(9/8～10/3)、  
博物館 3階展示室(10/6～24)

時 間：10:00～16:00  
休 館 日：日・月曜日  
入 場 料：無料

博物館スポット展示

テ ー マ：「第四紀における人類の進化と文化」(7/4～10/3)  
「植物細胞壁のミクロの世界」(9/8～10/24)



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

7月6日(月)～10月30日(金)

場 所：博物館野外観察園  
セミナーハウス 2階  
時 間：10:00～16:00  
休 館 日：土・日・祝日  
(10月10日、17日臨時開館)  
入 場 料：無料

博物館野外観察園セミナーハウスサテライト展示

「ムシの世界—名古屋大学博物館の昆虫標本と  
切り紙と博物画」

[関連ワークショップ「切り紙実演」

10月10日(土)  
時 間：11:00～12:00、13:30～15:00  
講 師：石川進一朗氏(切り紙作家)



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

9月19日(土)

場 所：豊田講堂、シンポジオンホール  
時 間：9:30～17:05  
定 員：100名  
対 象：博士課程後期課程学生、  
ポスドク  
参 加 費：無料

社会貢献人材育成本部ビジネス人材育成センター

第5回「企業と博士人材の交流会」

内 容：研究成果報告ポスターセッション、合同企業説明会



[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部  
ビジネス人材育成センター 052-747-6490

# イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

9月19日(土)~11月3日(火)

場 所: 愛知県および周辺地域

## あいちサイエンスフェスティバル2015

内 容: 様々なサイエンス/ものづくりイベントが集まる地域科学祭



[オープニングイベント]

9月19日(土)

場 所: ES 総合館 1 階 ES ホール

時 間: 10:30~12:30、14:00~16:00

講演題目: 「科学者が人間であることー生命誌をつむぎ、未来を想うー」

講 演 者: 中村桂子氏 (JT 生命誌研究館長)

講演題目: 「世界を変える分子を創る!ー化学と生物学の MIX ラボがスゴイー」

講 演 者: 伊丹健一郎 (トランスフォーマティブ生命分子研究所教授)

対 象: 中学生以上、一般

定 員: 180名

参加費: 無料

[問い合わせ先]

学術研究・産学官連携推進本部

特任講師 成 玖美 052-747-6527

10月8日(木)~11月19日(木)

(期間中の木曜日 全7回)

場 所: 国際開発研究科棟 8 階

オーデトリウム

時 間: 18:30~20:00

定 員: 80名

対 象: 高校生以上、一般

(全日程参加可能な方)

参加費: 無料

## 国際開発研究科2015年度公開講座

### 「新時代の国際協力」

内 容: 国際協力分野に関連する諸問題を、特に法、政治、社会と文化の側面から解説



[問い合わせ先]

文系事務部総務課 (国際開発)

052-789-4952

10月13日(火)~24日(土)

場 所: 2008ノーベル賞展示室

(ES 総合館 2 階)

時 間: 10:00~16:00

休 館 日: 日・月・祝日

入 場 料: 無料

## 2008ノーベル賞展示室

### ニュートン著「プリンキピア」第2版 (1713年出版)

### ホームカミングデイ特別展示

[関連特別講演会]

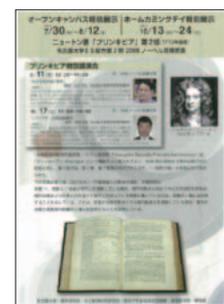
10月17日(土)

時 間: 13:00~14:00

講演題目: 「ソフトマターの理論物理学」

講 演 者: 宮崎州正 (理学研究科教授)

内 容: 液体とも固体ともつかぬ物質「ソフトマター (柔らかい物質)」について語る



[問い合わせ先]

理学部・理学研究科事務部 052-747-6577

参加費: 無料

10月17日(土)

場 所: 東山キャンパス

時 間: 10:00~

参加費: 無料

## 第11回名古屋大学ホームカミングデイ

### 「持続可能社会の実現に向けて」

内 容: 名古屋大学の集い、学術講演、名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート、名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室、あかりんご隊科学実験、施設公開・見学ツアー、他



[問い合わせ先]

総務部広報渉外課 052-747-6558

[学術講演]

講演題目: 「世界を照らす LED」

講 演 者: 天野 浩 (工学研究科教授)

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

## 10月18日(日)

場 所：中区役所ホール  
(名古屋市中区)  
時 間：13:30~15:30  
対 象：一般  
参 加 費：無料

## 第10回名大病院市民公開講座

講 演 者：後藤百万 (医学系研究科教授)、  
川上 肇 (医学部附属病院先端医療・臨床研究支援センター特任教授)、  
藤原忠美 (同特任教授)

[問い合わせ先]

医学部附属病院  
先端医療・臨床研究支援センター  
052-744-1956

## 10月21日(水)

場 所：減災館 1階減災ホール  
時 間：13:00~14:00  
対 象：一般  
参 加 費：無料

## 第13回減災まなび舎

講演題目：「火災から身を守るには」  
講 演 者：廣井 悠 (減災連携研究センター准教授)

[問い合わせ先]

災害対策室 052-788-6040



## 10月24日(土)、25日(日)

場 所：博物館 (10/24)、  
南知多の海岸 (10/25)  
時 間：13:30~16:00 (10/24)、  
9:00~16:00 (10/25)  
定 員：30名  
対 象：小学3年生以上、一般  
(小学生は保護者同伴)  
参 加 費：2,000円

## 第47回地球教室ーフィールドセミナーー

「博物館の収蔵庫と野外で  
深海の地層と化石を調べよう！」

内 容：深海でできる地層の特徴や化石の観察方法を学び実践する

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



## 10月24日(土)

場 所：東郷フィールド (附属農場)  
農業館 (愛知県東郷町)  
時 間：14:00~15:30  
参 加 費：無料

## 2015年度第2回農場講演会

講演題目：「いつも食べてるお米の話」  
講 演 者：西内俊策 (生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター助教)  
内 容：お米の品種や味といった身近な話から、育種や日本のイネの今後といった  
難しい話について、幅広い分野から少しずつ話題を取り上げる

[問い合わせ先]

生命農学研究科附属  
フィールド科学教育研究センター  
東郷フィールド (附属農場) 事務室  
0561-37-0200

## 11月3日(火)

場 所：IB 電子情報館 2階大講義室  
時 間：13:30~16:00  
定 員：300名  
対 象：一般  
参 加 費：無料

## 宇宙地球環境研究所 設立記念公開講演会

テ ー マ：「私たちのくらしと宇宙地球環境」  
講演題目：「オーロラを通して診る宇宙地球環境」  
講 演 者：藤井良一 (太陽地球環境研究所教授)  
講演題目：「過去2千年間の気候変動の歴史から学べること」  
講 演 者：中塚 武氏 (総合地球環境学研究所教授)  
講演題目：「気候変動リスクと人類の選択」  
講 演 者：江守正多氏 (国立環境研究所地球環境研究センター  
気候変動リスク評価研究室長)  
内 容：講演、パネルディスカッション

[問い合わせ先]

研究所事務部総務課 052-747-6303



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月7日(土)～3月12日(土)

(期間中の土曜日 全8回)

場 所：経済学部2階  
カンファレンスホール

時 間：10:00～12:00

対 象：中学生以上、一般

参 加 費：無料

名古屋大学オープンカレッジ

「自由奔放！サイエンスー知識・博学への挑戦」

内 容：大学の研究室で行われている最新の研究やその熱意を  
できるだけわかりやすく伝える

[問い合わせ先]

経済学研究科

エクステンション・サービス

ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

11月13日(金)

場 所：全学教育北棟4階  
多目的講義室(406室)

時 間：14:45～16:15

平成27年度国際言語文化研究科教育研究プロジェクト

日本語教育学講座講演会

講演題目：「日本人の言語行動におけるポライトネス  
ー効率的な日本語ポライトネス指導を目指してー」

講 演 者：松村瑞子氏(九州大学教授)

[問い合わせ先]

国際言語文化研究科 教授 杉村 泰

sugimura@lang.nagoya-u.ac.jp

11月21日(土)

場 所：理学南館1階坂田・平田ホール

時 間：13:00～16:35

定 員：300名

対 象：学生、一般

参 加 費：無料

素粒子宇宙起源研究機構

一般相対論誕生100年記念市民講演会

講演題目：「一般相対論の誕生」

講 演 者：佐藤文隆氏(京都大学名誉教授)

講演題目：「アインシュタイン最大の成功？」

講 演 者：杉山 直(理学研究科教授)

講演題目：「天文観測に見られる相対論効果」

講 演 者：國枝秀世(本学理事)

講演題目：「重力波の観測に挑むーアインシュタイン100年の宿題ー」

講 演 者：梶田隆章氏(東京大学教授)

内 容：時空理論とその周辺の研究の歴史、展開、そして最前線に触れる

[問い合わせ先]

理学部・理学研究科事務部 052-747-6577

名大トピックス No.268 平成27年9月15日発行

編集・発行/名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町(〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙

第13回全日本学生フォー  
ミュラ大会  
(フォーミュラチームFEM)  
(平成27年9月3日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>)でもご覧いただけます。

## 161 名古屋大学への行幸啓の歴史

本誌今月号に詳しく報じられていますように、この7月26日に天皇皇后両陛下が名大をご訪問になりました。今回は、名大への行幸啓の歴史をひもといてみましょう。

名大への初めての行幸は、1878(明治11)年のことでした。明治天皇がこの年に1府12県を72日間かけて回った、北陸・東海巡幸の時です。10月26日、当時25歳の明治天皇が、前年に近代的な施設を備えた天王崎の校舎に移転したばかりの愛知県公立医学校(医学部の前身)を訪れ、授業や実験の様態を視察しました。

その次は、まだ即位する前ですが、のちの大正天皇である皇太子嘉仁親王による1910(明治43)年の行啓です。これは、11月に実施された陸軍の第三師団(名古屋)と第十五師団(豊橋)の対抗演習を視察した後、続けて愛知県と三重県の諸施設を巡視した際のものです。11月18日、当時31歳の嘉仁親王は、午前中に第八高等学校(旧教養部の前身)を人力車で訪れ、校長以下教授一同と会見した後、授業と

軍事教練の様子を観覧しました。同日午後には、愛知県立医学専門学校(医学部の前身)を訪れ、授業や標本模型陳列場を観覧しています。

1927(昭和2)年には、踐祚したばかりの昭和天皇による行幸がありました。同年に愛知県で実施された陸軍特別大演習にともない、県内各地を行幸した際のことです。11月14日、当時26歳の昭和天皇は、午前9時5分に自動車で県庁を訪問したのち、9時55分に鶴舞の愛知医科大学(医学部の前身)を、名古屋高等工業学校(名古屋工業大学の前身)をへて、11時6分に第八高等学校(現在の名古屋市立大学滝子キャンパス)を、11時39分には名古屋高等商業学校(経済学部の前身、現在の名市大桜山キャンパス)を訪問、いずれも主な職員と会見したのち展示物を観覧し、八高と名高商では運動場で学生一同を親閲しました。

こうしてみると、今回の行幸啓で、明治以降の歴代の天皇がいずれも名大を訪れたことになるわけです。



|   |   |   |
|---|---|---|
| 3 | 4 | 5 |
| 1 | 2 |   |

- 1 明治天皇の医学校行幸を報じる1878年10月27日の『愛知新聞』の記事(マイクロフィルムプリントアウト)。天皇が医学校のオーストリア人教師(ローレツ)とも会見したとある。
- 2 嘉仁親王の名古屋への到着を一面の社説で報じる1910年11月6日の『新愛知』(現在の中日新聞)の記事(マイクロフィルムプリントアウト)。親王はこの後約2週間にわたって愛知県内もしくは三重県内で過ごした。
- 3 名高商における職員と学生の親閲。壇から降りようとしているのが昭和天皇。
- 4 愛知医科大学で展示品を観覧する昭和天皇。とくに顕微鏡に強い関心を示したという。
- 5 愛知医科大学の行幸記念館。1927年の行幸を記念して建設が計画され、1929年10月に竣工した。現在の鶴舞キャンパスの南東隅に隣接する部分(ひまわり保育園のあたり)にあった。